



いよいよ年の瀬です。朝の出勤時、車や路面の凍結が気になり始めました。タイヤの交換は済みましたか？ちなみに私はまだです……。今回の CE 通信は前回の「人工呼吸器ヒヤリ・ハット事例の発生分類」の続編です。



呼吸回路ヒヤリ・ハット事例について

財) 日本医療機能評価機構による医療事故情報収集等事業 H19 年度年報によると、人工呼吸器ヒヤリ・ハット事例報告件数 170 件のうち、32%にあたる 54 件が、呼吸回路に関する事例でした。一部を下記に示します。

- 呼吸器の回路を交換した際、吸気と呼気が逆に接続されていた。
- 換気量が不十分な状態に気がつき確認したところ、ウォータートラップの接続部にリークがあった。
- 加温加湿器を使用していたが温度が上昇しないため、温度センサーとヒーターを交換したが改善しなかった。その後、呼吸回路の吸気と呼気が逆に接続されていたことが確認された。
- ウォータートラップの水を排水した後、アラームが鳴動。別の箇所で回路が外れていた。
- 病室から空気が漏れる音がしたため確認したところ、チューブが外れていた。

・ ・ ・ ・ etc

以上からもわかるように、**呼吸回路の代表的な事例は、「誤接続」、「回路外れ」**です。

人工呼吸器では、呼吸回路が正しく接続されていなかったり、回路が外れたりした場合など、それに起因して発生する状態、例えば気道内圧が上昇しない状況等を検知して警報が作動することにより発見できます。加温加湿器であればモニタ温度が上昇しないことなどから、吸気/呼気の逆接続を発見できるので**アラームが発生したら、ただ消音ボタンを押すのではなく、必ず原因究明してから消音ボタン**を押しましょう。

今年一年 大変お世話になりました 来年も宜しくお願いします

CE Watanabe